



学び方を学ぶ

かつて私が聞いた話で、とても印象に残っている話を紹介します。

ある外国の発展途上の国で、気候的に雨がふらず、常に水不足という状態の国がありました。水がないと人間は生きていくことができません。そこで、他の先進国から支援をうけることになったのですが、皆さんならどんな支援を受けますか。その国の総理大臣になったつもりで考えてみてください。

三流の総理大臣は、大量の水（生活用水や飲料水を届けてもらうという支援を求めます。

二流の総理大臣は、井戸を掘ってもらって、そこから水をとれるようにします。

しかし、上の二つは、使っていればやがて水はなくなります。井戸もやがては枯渇します。そのたびにまた、援助してもらわなければいけません。さて、一流の総理大臣ならば、どういう支援をうけるのでしょうか……。

それは、「井戸の掘り方」を教えてもらい、「技術」を学ぶ、です。

これだと、今後は、井戸の水がなくなっても、また、新たに自国で井戸が掘れます。他からの援助を受けずに、持続可能な社会を作っていきます。

さて、この話は、みなさんの学習にも当てはまります。大切なことは、一時的な効果を求めるのではなく、**方法（学び方）**を学ぶことです。例えば、英語の単語や社会・理科の重要語句など、その時は覚えていてもいずれは忘れます。でも、皆さんが自分にあった「学び方」を身に付けていけば、学び直しをしたり自分で課題を見つけて自分で学んだりできます。社会に出たら教えてくれる先生はいません。自分にあった学び方を見つけ、「学ぶ力」をつけなければいけません。実はこれが、通知表の3つ目の観点である「**学びに向かう力**」にも直結しているのです。昔とは違って、「先生から与えられた宿題を、ちゃんとやって提出した＝（イコール）頑張っている」とはならないのです。ちなみに先生たちも、皆さんに「自分から学ぶ力」を付けてもらうことを目標に授業を改善しているところです。生徒のみなさんと先生と共に、新しい形の授業を創っていきましょう。

玉野はかつて醤油の一大産地だった！

山陽新聞（11月11日）に上のような記事が出ていました。そこで、生徒会は、自分たちが住んでいる東兎地区（番田、胸上地区）がかつて醸造が盛んだったということを知り、いろいろと調べてくれました。赤マル醤油として番田地区で2012年まで続いていたということですが、資料が展示されている市立図書館に冬休みに自主的に調べに行ったようです。せっかくなので、全校集会で発表してもらいました。

醤油は江戸時代には貴重な調味料として重宝され、300年以上も続いてきたことや、本校の卒業生の祖父母も醤油づくりに関わっていたとか・・・、プレゼン資料を作り発表してくれました。「塩田が近く塩が入手しやすかったことや、海や港が近かったこともよかった」ようで、私自身、長くこの地で勤めています、知りませんでした。ふるさと再発見です！！生徒会が自分たちで、時間を見つけて計画し、実行してくれたことに拍手！



能登半島地震 義援金協力のお礼

能登半島地震から1か月。連日のニュースや新聞等で、多くの方が命を落とし、さらに家族を失って我々が想像できないような悲しみの中で生活されている方々の状況などを見ると、胸が痛みます。さらに、家屋が全壊し、未だに避難所で窮屈な生活を送っている現地の状況もうかがえます。復旧にはまだまだ時間もかかりそうです。

そのような状況を知り、東兎中の生徒たちも、自分たちで何かできないか、という思いで生徒会を中心に募金活動を行いました。小規模の学校ですが、2日間で37,500円が集まりました。保護者の方もご協力いただき、ありがとうございました。集まった義援金は、山陽新聞の社会事業団の方へ送りました。



3年生は受験真っ只中！

1月25、26日に私立高校の1期入試が終わり、

先日、合格発表がありました。まずは私立高校入試という大きな試練を乗り越え、次に多くの人にとって第一希望である公立特別入試が、今週の2月7、8日に行われます。次から次に、とにかく今は大変な時ですが、今のがんばりが、将来の夢や目標を叶えることにつながります。受験生活に、無駄な努力なんて1つありません。辛い経験や我慢したことは必ず成長につながります。**がんばれ、3年生！！**

